

巻頭言 シシャパンマ隊を代表して

戸部隆吉
京都大学医学部・国立京都病院

京都大学ヒマラヤ医学学術研究計画 (Kyoto University Medical Research Expedition to Himalaya) のシシャパンマ峰遠征にあたり、文部省・厚生省・外務省・京都大学後援会をはじめ、各方面から暖かいご支援をいただきました。ありがとうございます。隊員一同を代表して、厚く御礼申し上げます。

京都大学ヒマラヤ医学学術研究計画の第3次隊であるシシャパンマ隊は、当初計画していたすべての学術調査を予定通りおこない、8027メートルの登頂にも成功し、32名全員とサル2頭は無事に帰国いたしました。ボケることもなくそれぞれの仕事に復帰しております。

とくに、予想をこえて、15名もの多数の隊員 (中国側隊員とシェルパも含めると計22名) が8027メートルの頂上に立つことができました。斎藤惇生 (60歳) と中島道郎 (59歳) の副総隊長2名は、60歳前後の高齢者の8000メートル登頂記録をつくり、世界で3名の中に入りました。ニホンザル2頭も到達高度の世界記録を達成しました。また、医学調査結果も徐々に研究成果が集積されつつあり、1991年2月にカナダで開催された国際低酸素症シンポジウムでの発表をはじめ学会発表をおこなうとともに、本誌の各研究報告としてその一部を公表いたしております。5000メートルを超える超高所での採血標本の血液学的分析や、ガストロカメラの所見や、眼底鏡の所見など、世界ではじめての興味のある所見が明らかにされてきております。くわしくは本誌の各研究報告ならびに続報をご参照ください。なお本誌「ヒマラヤ学誌」は、京都大学ヒマラヤ医学学術研究計画の推進の一環として、昨年創刊されました。医学をはじめとして広く環境科学の研究を含めた「ヒマラヤ学」の創始に向けた新たな試みです。

シシャパンマ隊の成功は、隊員全員がそれぞれの役割と責任を十分に自覚し、誠実に遂行したことと同時に、西島安則京都大学総長をはじめ各方面のご協力と、有形・無形のご支援があったからに他なりません。とくに、中国登山協会の方々のお溢れるばかりのご誠意とご配慮によってはじめて達成されたものであります。

私は、4月初旬から5月初旬にかけて約1カ月間、中国からチベットに入り、チベット高原の荒涼とした砂漠を砂ほこりにまみれながらシシャバンマのベースキャンプに到り、その後ネパールにぬけました。この期間、全行程を通して中国登山協会の副主席兼秘書長である王鳳桐さんが同行してくださいました。

私の生涯の中でも、ヒマラヤを横断したチベット高原の旅は本当に思い出に残るすばらしい黄金の日々でありましたが、この間に示してくださいました王鳳桐さんの誠意溢れる友情は一生忘れることができません。中国の言葉で、仲の良い友人というより心に残る友人のことを、「赤誠相見・肝胆相照・心心相応」と表現するのだと教えられました。ヒマラヤの壮大な景色とともに、心に残る言葉です。

シシャバンマ隊の壮行会の時に、「若い人達に、広い空に向かって大きな声で叫べるような夢を抱かせてやりたいと念じて、身の程も考えずに総隊長の重責を引受けた」と、私は申しあげました。私の恩師のお一人でありました京都大学第二外科、故木村忠司教授は、京大学園紛争時代、病院長・医学部長として、大変苦勞されました。ご定年直前、会長として主宰されました日本外科学会総会の閉会のお言葉の中で次のような意味のことを言われました。「今の世の中で、若い学生や研究者が、限らない未来を夢み、大きな空に向かって大きな声で叫ぶことを忘れてしまっている。若い人達に、大きな夢をもたせてやりたい。」この言葉は、私の耳の底に今でも残っております。

私は、いま外科学教室を主宰しておりますが、何時も願っておりますことは、若い人達が、未来に向かって夢をもって前向きに努力することです。組織がその古い殻を打ち破って、新しく高く高く伸びるには、組織の中に夢とエネルギーをもった若い人達が充ち溢れなければならないと思っております。

シシャバンマ隊の計画が進行していたとき、私は京大病院長の職をかね日本外科学会副会長としての責任もありました。こうした責務があるにもかかわらず、私が総隊長としての重い責任をお受けいたしましたのは、松沢・松林・瀬戸らの情熱に打たれ、私の恩師木村忠司教授のお言葉のように、古い殻の京都大学の中で夢をもっている人達の、その夢を実現させてやりたいと願ったからに他なりません。

チベットの荒涼とした高原を走りぬけながら、またシシャバンマ峰の標高5000mのベースキャンプで、連日心の洗われるような日々を送りながら、私自身もまた大きな感動を受け夢をみさせていただきました。

皆様方のご支援に心からの御礼を申しあげ、本誌の巻頭のご挨拶とさせていただきます。